

特定非営利活動法人多世代交流館になこーす

2011(平成23)年度 **通常総会** <第1回>

日時：2011年9月4日(土) 午前10時~11時

会場：特定非営利活動法人多世代交流館になこーす



謝意

2010(平成22)年度、活動継続の新拠点を建設するに辺り、理事らが中心となって立ち上げた別団体「新・になニ～ナを創る会(平成22年2月～12月寄付募集活動)」へ、多くのみなさまからご寄付いただきました。その結果、団体の自己資金と合わせ、5,523,676円の新拠点建設資金を集めることができ、誠にありがとうございました。おかげさまで、平成22年10月の長岡市蓮潟で再オープン以来、延べ2,600人の方々に足をお運びいただき、私達も精力的に活動を継続させていただいております。

また、多くの団体、個人のみなさまから、賛助会員、ボランティアとしてご支援やご寄付をいただいております。この場をお借りしまして、みなさまのあたたかいご支援に心から感謝申し上げます。

平成 22 年度会員

正会員 14 名

賛助会員

企業会員 9 社

活動会員 19 名

にな会員 84 名

(平成 23 年 6 月現在)

平成 22 年度になニーナスタッフ(ボランティア)

24 名

(平成 23 年 8 月現在)

総会次第

1. 開会
2. 佐竹直子代表理事挨拶
3. 議長、議事録署名人選出
4. 議事
 - 第1号議案 2010(平成22)年度事業報告承認について
 - 第2号議案 2010(平成22)年度決算報告書承認について
 - 第3号議案 2011(平成23)年度事業計画(案)承認について
 - 第4号議案 2011(平成23)年度予算(案)承認について
 - 第5号議案 定款変更承認について
5. 閉会
6. 交流会(自由参加)

資料もくじ

佐竹直子代表理事挨拶	3
議事 第1号議案 2010(平成22)年度事業報告	4
第2号議案 2010(平成22)年度決算報告	9
第3号議案 2011(平成23)年度事業計画(案)	22
第4号議案 2011(平成23)年度予算(案)	25
第5号議案 定款変更	26
役員名簿	27

佐竹直子代表理事挨拶

多世代・多文化・多地域・多分野の人たちが日常的に交流しあうことで、より安心して生き生きとした生活を！と、目指す社会は大きく、実際の活動は手と目と声が届くところで、を心掛けてきました。初年度は、任意団体からNPO法人への移行で、内部の体制調整に合わせ、会計をはじめとする事務的な諸作業が多く、目に見えないところでの苦労が多くありました。加えて、活動の拠点が仮事務所も含め2度の移動、とハード面においても作業量が多く、たくさんの人たちからご協力・ご支援を頂きました。特に、新拠点を創るにあたり、当団体理事らが「新・になニーナを創る会」を発足し、一丸となって拠点創りに力を注いだことは、これからの活動の土台作りにもつながったと感じています。新拠点ができてからも、事業と平行して新たな体制作りをしながら、丁寧に受け入れを行っていった結果、来館者満足度が高くなり、会員増加と認知度アップに繋がったと思います。また、3月の東日本大震災において、長岡市が被災者を受け入れたことと、連携団体との協働により被災地への支援が始まったことは想定外でしたが、必要とされているところへ必要な支援をできる範囲でさせていただきました。おたがいさまの気持ちと、震災を経験し、そこからの小さな復興事例が日常の活動になっているになニーナだからできること、見える視点が生かされたのではないかと自己評価しています。世界中で毎日のように世界を揺るがすニュースが報道され、国内においても人の力では防ぎようのない災害に見舞われ、安心とは程遠い今を生きながらも、小さな世界になニーナから笑顔と笑い声が広がって行きますように。

第 1 号議案 2010(平成 22)年度事業報告

1) 居場所づくり事業

事業の概要

具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 (E)人数
常設交流サロンを開設	(A)通年 (B)拠点 (C)1～3名	(D)広く希望者 (E)2,280名
企画交流サロンを開催 (子育てサロン、手しごとカフェ、健康お茶会等)	(A)月6回 (B)拠点 (C)1～3名	(D)広く希望者 (E)320名
nina-cafe 開設 (コミュニティカフェ)	(A)週2回 (B)拠点 (C)2～3名	(D)広く希望者 (E)200名
貸館 (会員主体による交流企画の開催)	(A)通年 (B)拠点 (C)1～4名	(D)広く希望者 (E)85件
多世代交流企画を開催 <長岡市受託事業>	(A)月4回 (B)市民防災センター (C)3～5名	(D)広く希望者 (E)310名

(C)には主たる従事者の数のみ記載。この他に多数のボランティアスタッフが関わっている

事業の成果

誰でも日常的に、交流し、共に集い、学びあい、育ちあえる場を提供するために、新拠点及び子育ての駅ぐんぐん(市民防災センター内)において、各種サロン等を開催した。

また、新拠点においては、会員主体による交流企画(貸館利用)を開催することで、より広がりのある居場所づくりを図るとともに、各種サロンや企画のっていない時間帯は広く一般の方々が無料で自由に使える「常設交流サロン」を開設した。

各種サロン企画の中には、参加者(母親達)のリフレッシュ効果が期待できることから、新潟県の委託事業「子どもの虐待防止オレンジリボンキャンペーン事業」として成果を報告したのもあった。

さらに、より居心地のよい居場所と、つながりづくりの場を提供するために、平成23年6月にコミュニティカフェ(nina-cafe)をオープン。安心して(食の安心、人とつながる安心)食事をとりながら、交流ができるコミュニティカフェを目指している。

これらの、各種サロンや企画、コミュニティカフェの運営には、子育て中の母親達を中心とするボランティアスタッフ(になスタッフ)が積極的に関わることで、人材育成の場ともなっている。



子育てサロン(になニーナ)



手しごとカフェ(子育ての駅)

2) 育成事業

事業の概要

具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 (E)人数
になスタッフ養成	(A)通年 (B)拠点他 (C)1～4名	(D)広く希望者 (E)210名
ボランティアの受入れ	(A)通年 (B)拠点他 (C)1～4名	(D)広く希望者 (E)50名
研修会実施	(A)通年 (B)拠点 (C)1～4名	(D)広く希望者 (E)221名
NP研修実施 <新潟県受託事業>	(A)12月 (B)市民防災センター他 (C)1～4名	(D)広く希望者 (E)48名

(C)には主たる従事者の数のみ記載。この他に多数のボランティアスタッフが関わっている

事業の成果

一般の来館者である子育て中の母親が、研修を受けてスタッフとして開館中の来館者対応や館内整備など各種作業、子育ての駅などの外部開催のイベントスタッフとして社会参加を広げるきっかけ作りの場を提供した。平成 22 年度はサロン企画、事業チームなどでの役割を意識的に増やし、実際のイベント等を通してのスキルアップを図った。その結果、様々な経験を経て、コミュニケーションスキルを高め、当団体だけでなく、親子サークルの代表や、行政の委員等、他組織での活動を広げている。ボランティアとして関わる学校、団体数が増加しており、運営上の人手が不足していることから、貴重な人手となっているが、さらなる受入と育成の体制整備が望まれる。

助成事業でスタッフと一般向けのコミュニケーション、ファシリテーション研修を、新潟県委託事業として NP 研修(ノーバティズパーフェクト研修)を子育て支援者向けに行った。



スタッフ向け研修



学生ボランティアによる
スタッフ会議中の子どもの見守り

3) つなげる事業

事業の概要

具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 (E)人数
郷土イベント (じゃがいも堀、稲刈り、煮菜の日、多地域交流会等)	(A)通年 (B)拠点、各地域 (C)1~5名	(D)広く希望者 (E)360人
食の講座 (乾物料理協実、米粉料理教室等)	(A)月1回 (B)拠点 (C)1名	(D)広く希望者 (E)23人
ぷらっとマルシェ開催 (草餅持ちつき販売、米粉販売等)	(A)通年 (B)拠点 (C)1名	(D)広く希望者 (E)50人
広報物制作・普及<販売> (長岡山のごっつお帖)	(A)通年 (B)拠点、委託先 (C)1~5名	(D)広く希望者 (E)700冊作成 196冊寄贈 170冊販売
食をテーマにした多世代交流企画を開催 <長岡市受託事業> (ゆごう使い名人、ヤーコン使い名人、もちつき)	(A)年3回 (B)市民防災センター (C)1~5名	(D)広く希望者 (E)390名

(C)には主たる従事者の数のみ記載。この他に多数のボランティアスタッフが関わっている

事業の成果

過疎化の進む中山間地域と「食」「農」「伝承文化」を通じて交流を行った。

田植えや稲刈りなどの農体験後の郷土料理会食を通して、集落や他団体と交流の機会を持ち、多世代多地域のつながりを広げ農村地域及び農業の活性化を図った。

また、拠点や子育て支援センターでの郷土料理伝承企画では、積極的に交流しやすい企画内容や場の設定により、参加者と講師のお母さん方や別地域のお母さん同士が「食」を通じて会話をもち、新しい交流の機会となった。広い年代・地域を越えた交流、企業も巻き込んだ企画もあり、各会場でそれぞれの目的を達成できた。

山のお母さん方の料理をまとめた「山のごっつお帖」を作製し販売を始め、新聞での紹介が大きな広報力となり予想以上の販売数となった。新たな拠点では、地域性・希少性・安全性を重視した農作物や食品の販売「ぷらっとマルシェ」を開催した。農や食を通じた交流を、気軽に関われる「販売・購入」という形で、より広げたい思いで、試みる。

木沢の餅搗きでは、集落側からの意向で開催でき、美味しさを求めてきた人々に、集落の伝統や中越地震からの復興を伝えることができた。また隣接の公園を会場とすることで、町内会にも広報の協力を依頼し、現地域へ当団体の存在を周知する機会にもなった。全体を通して、今まで交流のあった地域・人とは信頼を深め、それが企画に反映され、新たな企画では今までの経験を活かし、より交流しやすい仕組みや盛り上げを実践できたことで、事業全体が広がり深まる形となった。



◀ 新春もちつき大会(ぐんぐん)

4) 相談・コーディネート事業

事業の概要

具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 (E)人数
企業等協働イベントの開催	(A)年 3 回 (B)ハイブ長岡他 (C)3～5 名	(D)不特定多数 (E)60,000 人
相談窓口の開設	(A)通年 (B)拠点 (C)1～4 名	(D)行政、企業、団体等 (E)100 件

(C)には主たる従事者の数のみ記載。この他に多数のボランティアスタッフが関わっている

事業の成果

平成 23 年 2 月まで個人、企業、行政、団体など、多様なニーズへの相談窓口を開設。イベントカレンダーやホームページでも広く周知を行い、様々な声への対応を地域の人材や企業イベントにつなげ、単発企画などに発展した。3 月以降も様々な相談が多くあり、これまでのネットワークをいかした対応を行なった。企業からの依頼によりイベント時の、キッズスペースコーディネートや講座等での保育スタッフ派遣を行い、子育て世代のニーズに沿った、支援、協力を実施できた。

<相談・コーディネート事業 協働イベント一覧>

期日	イベント名	協働先	内容
2010. 7/10 11	まるごと生活博覧会	(株)まるごと生活新聞社	キッズスペースコーディネート
6/27	市民協働条例 WS	(社)中越防災安全推進機構	保育コーディネート
9/1	防災センター 避難訓練	(社)中越防災安全推進機構	避難訓練協力
11/6 7	トキっ子 子育て応援フェア	関東朝日広告社	キッズスペースコーディネート
10/28	トキっ子 再就職セミナー	トキっ子くらぶ	保育コーディネート
2011. 5/30	東北電力エコ講座	東北電力株式会社	保育コーディネート



イベント会場キッズスペースコーディネート

5) 広がり事業

事業の概要

具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者 (E)人数
講師派遣・視察受入	(A)年 10 回 (B)各地域 (C)1～3 名	(D)広く希望者 (E)10,000 人
子育て防災支援士養成事業	(A)4 月～3 月 (B)市内及び関東方面 (C)3 名	(D)広く希望者 (E)700 人
防災啓発及び 防災冊子「あんしんの種」販売	(A)通年 (B)拠点他 (C)1～3 名	(D)広く希望者 (E)3,000 冊増刷 202 冊寄贈 170 冊販売
広報物普及 (イベントカレンダー、各にな主催講座チラシ等)	(A)毎月、必要時 (B)拠点 (C)1～5 名	(D)不特定多数 (E)1,500 部/月
東日本大震災後支援	(A)3 月 15 日～ (B)長岡市内に設置され た避難所、東日本大 震災ボランティアバ ックアップセンター(な がおか市民防災セン ター内)、被災地各所 (C)4 名	(D)(E)広く被災地 被災者 支援団体等

(C)には主たる従事者の数のみ記載。この他に多数のボランティアスタッフが関わっている

事業の成果

毎月の地道なイベントカレンダー発行やホームページ、ブログの更新などにより、拠点移設など大きな動きがあったことも、タイムリーに発信し、最新情報を届けることができた。

子育て支援士養成事業は、単年度の試験的なものであったが、関東方面への体験談発表や交流などは、新たなつながり・広がりになった。

防災冊子「あんしんの種」は、上記子育て支援士養成事業で配布したほか、関東方面での出前講座や別依頼の講演会などで紹介し、販売につながった。また、東日本大震災後の支援活動で、いち早くホームページ上であんしんの種の内容が閲覧できるようにし、被災地で必要なところへは直接現地へ届けた。現在はホームページから購入できるように体制を整えた。

大きな事業の際、マスコミ各社に取材案内をしたことで、新聞やテレビ、ラジオなどへの出現が増え、認知度があがってきた。



厚生労働省大臣による視察
(ナチュラルホットケーキ教室)



子育て防災支援士養成講座